

1 支部長になる経緯

近畿支部(創立当時は、近畿会と呼ばれることが多かったようです)が、25周年を迎えた。ちょうど、5年前の20周年の時は、私が支部長を務め、記念シンポジウムを開催した。当日発行した記念誌にも、私自身と近畿支部との関わりを執筆したが、支部長を終えて、その続編を著したい。

私は、2006年(平成18年)2月から2012年(平成24年)2月まで、3期6年間近畿支部長を務めた。近畿支部選出の理事枠は3人で、石島氏、浦上氏、喜多氏であったが、支部長の石島氏が退任されることになった。喜多氏が支部長になる予定であったところ、とある事情が本部との間に発生し、支部長を辞退し、浦上氏も固辞された。残りは私一人となり、支部長経験者等の先輩方と相談し、後押しをもらい、支部長をさせてもらうことになった。

2 支部の運営方針

私は、支部長をされていた石島氏と異なり、システム監査を実務で行っておらず、同じようにはできないが、システム監査の普及と発展を目標にして、支部の運営を考えた。

まず、本部との連携を円滑に進めるため、毎月定例の東京での理事会に出席し、人間関係の再構築を図った。また、支部運営に当たっては、サポーター制度が既にあり、研究会の受付のお手伝い等をしてもらっていたが、支部活動の中心が、支部理事が自分でできる範囲で、自分が興味のある内容を行うという属人的なものになっていた。ボランティア活動であるが故に、仕方ないところではあるが、システム監査人というハイレベルな頭脳集団がより一層の社会貢献を行い、地位を高めていきたいと考えた。

このため、支部規約を新たに制定し、支部理事以外の人も活動に積極的に参加してもらえるよう支部役員を設け、組織的に運営を円滑に進める体制づくりを行った。これまで、奇数月の研究会と偶数月のビデオ視聴による勉強会は定例的に行ってきたが、更に、有志による研究会を企画し、その運営は支部理事以外の方が中心になって行うよう進めた。

3 近畿支部の研究会活動

最初は、「近畿支部」- S O X研究会」を2007年(平成19年)2月に京阪氏を主査に立ち上げた。2007年5回、2008年1回と様々な講師を招いたが、途中解散状態になった。

2008年(平成20年)7月に、近畿支部20周年記念シンポジウムを開催し、出席者がシンポジウム169名、懇親会74名と盛況であったが、内容的には、システム監査の期待に対して、今後の方向性をはっきりと示すことができなかった。

そこで、翌2009年(平成21年)8月には、「近畿支部20周年+1公開シンポジウム - なんているねん！システム監査 - 」を出席者53名で開催した。理念だけではなく、具体的な活動の必要性を認識させるものになった。

また、この2009年11月には、大阪南港のWTCビル(現大阪府咲洲庁舎)の見学会と「コンプライアンスとシステム監査」をテーマに松田先生(近畿支部会員、大阪成蹊大学教授)の基調講演や各支部から発表という西日本支部合同研究会を行った。この取り組みから、コンプライアンスのシステム監査をテーマにした研究会を立ち上げることになった。

更に、サポーターの意見を集約し、2010年(平成22年)は、コンプライアンスのシステム監査(システム監査学会共催)、システム監査法制化、BCP、クラウド(システム監査学会共催)の4研究会、システム監査セミナーWG、近畿支部サイトWGを立ち上げた。中でも、BCP研究会は、総会の懇親会の席上、関西氏(当時、近畿支部理事)の発案で急きょ立ち上げ、クラウド研究会は、年度途中で学会との共催が決まった。喫緊の課題に迅速に対応するものであった。

2011年は、これらの研究会、WGの活動成果をレビューし、支部会員でかつ他の分野等でも活躍されている方をコメンテーターとする研究大会を出席者110名で開催した。

こうした実績を引き継ぎ、2012年は、林氏に支部長を、是松氏、荒町氏に支部理事をバトンタッチできた。

4 まとめ

これまで、6年間の活動の総括を述べたが、実際には、必ずしも順調にこうした活動を進めてきたわけではない。特に、支部理事の中で、協力が得られなかったり、足を引っ張られたりすることがあったことは、残念である。また、システム監査人協会の組織拡大のため、若者や女性の会員増加ができなかったことも、悔やまれる。今後の支部活動に期待をすると共に、私も支部参与としてお役にたてればと思っています。

最後に、私の拙い支部運営にご協力頂いた近畿支部の皆様、本部・他支部、ISACA大阪支部等関係団体の皆様に感謝申し上げます。